

第3回いわて農林水産物機能性活用研究会セミナー 開催要領

「天然素材の機能性の活用 - 探索から商品化まで -」

1. 趣 旨

バイエル社がアスピリンの化学合成に成功してから広く合成薬が普及しているが、その起源はヤナギの樹皮が有する鎮痛成分であることは有名である。天然素材を起源とする薬品は多く、岩手県の農林水産資源にも様々な成分が含有されている。

地域の多様な天然素材の機能と有効成分の研究、地域素材の規格化と業務用製品化、発酵技術の導入によるオリジナル商品の開発、ニッチな素材の消費者向け商品化などを学び、岩手の農林水産資源の機能性活用に生かす。

2. 開催日時 平成31年3月1日(金) 13:30 ~ 16:40

3. 開催場所 盛岡市盛岡駅西通2-9-1 盛岡地域交流センター マリオス18階 会議室

4. セミナーの内容

大学および産業界から4名の講師を招き、各々の先進的な取り組みを紹介していただきます。

岩手大学より、天然物化学分野に新しい手法を導入することで、様々な天然素材の持つ機能と有効成分を同定する最先端の研究事例について。

日本ゼトック株式会社より、多様な要望を受け消費者向け製品を開発するオーラルケア製品OEM製造日本最大手の開発力(具現化力)について。

オリザ油化株式会社より、有用な天然素材を発掘・規格化し工業利用可能な素材として開発する取り組みについて。

株式会社ファーマンステーションより、岩手から発酵技術を切り口に魅力的なオンリーワン製品を発信する取り組みについて。

5. 参集範囲

山菜や生薬などの生産者、研究開発関係者、小売り流通関係者、行政関係者 等

6. 主催・後援

主催：いわて農林水産物機能性活用研究会

共催：岩手農林研究協議会 (AFR)、公益財団法人 岩手生物工学研究センター

7. 出席申込方法ほか

研究会会員の方には、別途出席申込み書をお送りします。一般の方は、当日参加が可能です。

申し込み、問い合わせは「いわて農林水産物機能性活用研究会事務局」まで

メール (k-shinohe@ibrc.or.jp)、電話 (0197-68-2911)、FAX (0197-68-3881)

裏面にプログラム

次 第

3月1日（金）13：30～16：40

13:30 開会
挨拶

13:35 セミナー前半 効率的機能性成分の探索研究と製品開発
座長 岩手医科大学 薬学部 情報薬科学分野 西谷直之 教授

講演1 「岩手地域素材の機能性評価と機能性成分の探索」
講師 岩手大学農学部 木村賢一 教授 (13:40～14:20)

講演2 「顧客要望を形にする OEM 企業の力」
講師 日本ゼトック株式会社 R&D 事業本部 大谷浩淑 開発研究部長
(14:20～15:00)

～ 休憩 ～

15:10 セミナー後半 地域素材の開発と消費者向け製品事例の紹介
座長：（地独）岩手県工業技術センター食品技術部 伊藤良仁 部長

講演3 「各地の天然素材発掘と機能性素材化の取り組み」
講師 オリザ油化株式会社研究開発部 下田博司 開発本部長 (15:15～15:55)

講演4 「発酵技術で地域からオンリーワンの製品開発」
講師 株式会社ファーマンステーション 酒井里奈 代表取締役
(15:55～16:35)

16:35 総合質疑

16:40 閉会
